

教育に新聞を

毎週火曜掲載



関口修司さん

始業前の時間を週1回使えば、毎週15分間は新聞に

触れることができます。授業ではないので、指導計画を見直す必要もありません。問題は何をやるかです。そこで頭に浮かんだのが、教員人生で一回だけの1年担任でおこなった「新聞スクラップ」。お気に入りの新聞の写真を台紙に貼らせました。1年生でも写真は喜んで選びます。貼らせてびっくり。男の子は乗り物や昆虫、女の子は花や小動物の写真を選ぶのです。まるで打ち合わせたかのよう



1

せきぐち・しゅつじ 1955年東京生まれ。東京学芸大を卒業後、東京都公立小学校教員として勤務。その間(91〜2007年)、群馬大教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。

「低学年はこれでいける。中・高学年は記事の感想も書かせよう。これなら全校でできる」と意を強くしました。そうは言っても、担任が納得しなければスタートしません。「子どもには難しい」と反対もあるでしょう。しかし、ここは少々強引に

実践

コラム

力試し

現場

NIEタイム 児童に変化

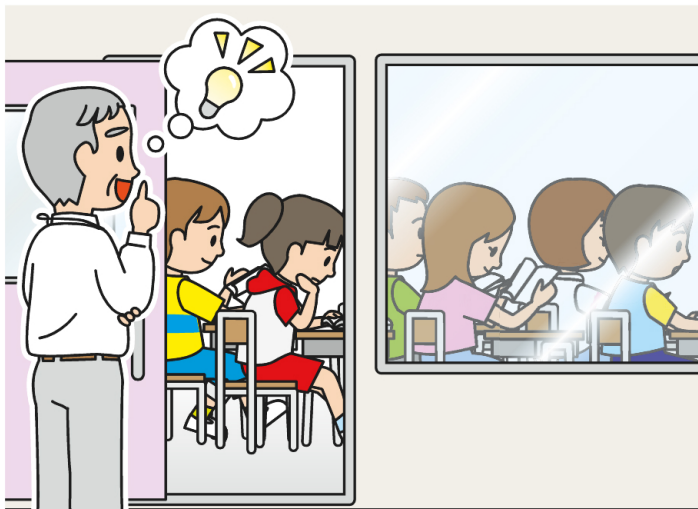


イラスト さとうあけみ

「まずは、やってみよう」と伝え、「NIEタイム」として見切り発車。2006年9月のことでした。初めのうちは15分では終りません。案の定、先生方から不満の声。子どもたちも「難しい」「めんどくさい」と言い始めました。しかし、「とにかく3カ月」と言って譲りませんでした。

2カ月を過ぎた頃、地道に続けている先生方からうれしい報告がありました。「喜んでやっています」「書けるようになりました」と。そして、3カ月が過ぎたとき、子どもたちの取り組み様子を見て、反対する先生はいなくなりました。「新聞に親ませよう」と始まったNIEタイムでしたが、「新聞から学ぶ」「子どもたちの生き生きとした姿が毎週見られるようになりました。うれしい誤算は、この後も続きます。」

(日本新聞協会NIEコーディネーター 関口修司)
 次回8月6日掲載